

# 月報 シオン山

2026年1月4日発行 (No503)

\*\*\*\*\*

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

## 【月間聖句】

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。

わたしの助けはどこから来るのか。

わたしの助けは来る

天地を造られた主のもとから。

(詩編121編1～2節)

意外性の神に期待して

牧師 加藤英治

新年あけましておめでとうございます。

この年、私たちはどのような視点・方向性で教会の様々な活動や証を行っていったらよいだろうか、ということを考えていたとき、以前の教会で経験したことを思い起こしました。

その時私は、特別伝道集会のチラシを近隣に配っていました。一人100から200枚をもって、自分が担当するブロックの家々に配っていきます。教会の近隣でも、ブロックごとに結構特徴があり、それぞれ違っていています。私が担当した地区は、その中でも最も配りにくい所でした。まず道が曲がりくねっています。各家がかなり敷地が広く、郵便ポストに行くまでに10メートルから時には20メートルも歩かなければならないこともしばしばです。だから、なかなか枚数を配ることができません。100枚も行かないうちに、1時間余りが経ってしまいました。こういう道と家の配置は、古くからこの地に住んでいる方々が多いと思われるからです。配りながら私は、「こういう古くからの地域からは、なかなか来てくれないんだよね」と、配る意義にも疑問を感じていました。そんなふうにして、ようやく私のチラシ配りが終わりました。

それから何日か後に集会当日となったわけですが、ここに驚くことが起こりました。なんと、私が配った地区から一人の新来者が来られたのです、あのチラシを見て！　そういうふうにチラシ配りのチラシを見て来られた人は、その方ただ一人でした。それがよりもよって、あの地区から。その日の特伝は、今まで経験した主日礼拝出席者としては最高となりました。その方が来られたのは、その一回限りであったのですが、私はここから大きなことを学びました。

それは、私たちの信じるイエス・キリストの神は「意外性の神」であられるということです。イエス・キリストのご生涯を見て行くと、またそもそも聖書の初めから神様のなされることは、実に意外性に満ちています。その最たるものは、「全能の神が一人の人間イエスとなって来られた」という、あのクリスマスの出来事ではないでしょうか。また、人と世界の救いが、当時最も悲惨で呪われた死であったイエスの十字架に至る道を通して来るということ。さらに、すべての人が諦め絶望していたところから、あの三日目の朝イエスが神に起こされ復活して来られたこと。それらすべてが意外性に満ちています。

私たちもこの年、「決まりきった考えとあり方と行動」によって、歩み働き生きてはいけないのではないか、と思わされます。「神様は私たちが思いもしない、期待もしない」そんなところから神の良き業を起こし、始めてくださるのではないのでしょうか。イエスがこう語っておられます。「そこで、『一人が種を蒔き、別の人が刈り入れる』ということわざのとおりになる。あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。」(ヨハネ4・37～38)

この「ことわざ」は、もともと大変否定的で悲しい意味だったようです。「一人の人が苦労して種を蒔いた。でも、その収穫を別の人が刈

り取って行ってしまう。ああ、なんという不幸であり、損だろうか。人生って、そんなもんさ。」しかし、イエス様はそんな生き方を逆転されました。私たちの言動と生き方は、かつてのあのことわざのように分裂的であり対立的でした。「私は蒔いてばかりいる。あの人はそれをいつも調子よく刈り取って行ってしまう。」「刈入れることが大切なのであって、蒔くなどという奉仕はつまらない、くだらないものだ。」しかし今、主はそれを「まく者も刈る者も、共に喜ぶ」という道へと逆転なさるのです。

そして、それは「ただただ恵みによって生かされ、働く」という道です。「わたしは、あなたがたをつかわして、あなたがたがそのために労苦しなかったものを刈り取らせた。」ほかのだれかが汗を流して、自分の報いを求めず、あなたがたに先立って働いてくださり、あなたがたのために労苦することを喜びとしてくださった、その実りを何のためらいも遠慮もなく、あなたがたは意外にも（！）受けることがゆるされる。これこそ「恵み」です。それは何より、誰より主イエス・キリストが、神御自身が私たちにしてくださり、与えてくださったものです。この恵みを知らされる時、私たちも生きられるのではありませんか！たとえ私たちが自分の労苦の実りを直接的に見、得ることができなくても、後のだれかが善き実りを得ることができることを祈り望んで、喜ぶ、そんな生き方で生きることがゆるされます。

神の意外性とその恵みに期待し、今年も共に証と奉仕の働きに励んでまいりましょう。